

令和4年度 奈良県立五條高等学校 学校評価総括表（年度末報告）

【高等学校用】

年度	令和4年度（中期計画1年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	校訓である「質実」「剛健」「礼節」を身に付けた、地域・社会に貢献する自立した人材の育成
年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の充実・伸長を図る。－探究活動の積極的な導入、家庭学習の充実、計画的な学習、補充講座の充実、言語活動の充実、授業研究の推進、学ぶ意欲と想像力を高める教育の実践 等 規範意識等の向上を目指す。－欠席・遅刻を減らす取組、挨拶・マナーの向上、頭髪・服装・言動・規範意識などの点検 等 コミュニティ・スクールの取組を通して保護者や地域の要望や意見を学校運営に反映させるとともに、地域と連携し、地域と共にある学校づくりを推進する。地域貢献できる外部人材の活用にも努める。－公開講座・出張授業の実施、近隣の学校・園との連携、外部人材の活用 等 ニーズに応じた特色ある教育課程を研究する。－「まなびの森コース」の教育内容の充実、進学に向けた基礎学力の充実、大学等との連携によるキャリア教育の充実、情報機器等の活用に関する研究 等 奈良T I M Eの主旨を踏まえ、奈良の歴史を学ばせ、郷土愛を育む。－総合的な探究の時間等の活用、地域でのフィールド学習、奈良に関する講演 等 自分に自信と誇りをもてる指導を行う。－検定等の合格率の向上、校歌の指導、各種コンクール等への挑戦、言語活動の充実 等 温もりのあるコミュニケーション力を養い、生徒を支援する教育の充実を図る。－教育相談や特別支援の必要な生徒・不登校生徒等への指導体制の充実、支え合う仲間づくり 等 体力向上を目指す取組を行う。－部活動の活性化、自己記録の更新、効果的な練習法の研究、外部指導者の活用 等 生徒の教育活動や校舎・人工芝などの施設・設備等についての五條高校の魅力を積極的に広報し、良き伝統とともに新しい取組にも果敢に挑戦している姿勢をアピールする。－中学校訪問、オープンスクールの充実、H Pや報道資料の積極的な更新や発信 等 防災教育の見直しや美化活動の充実を図る。－H Rなどにおいて定期的・計画的に防災教育を行い、火災だけでなく、地震や豪雨等の非常災害に対応できる力を育成する。 危機等発生時対処要領（いわゆる「危機管理マニュアル」）を適宜見直しを更新する。－「五條高等学校危機管理マニュアル」の点検・見直しを継続的に行い、教職員の意識高揚を図る。また、今般の新型コロナウイルス感染防止等も含めた緊急情報については、速やかに生徒・保護者に発信できるよう、緊急メールシステム等の活用を一層図る。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	<p>本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 本校の使命や教育方針を理解している生徒 より発展的な学びを目指し、様々な学びに積極的に取り組む意欲のある生徒 資格取得に向けて意欲的に取り組む生徒 主体的に考えて行動でき、地域貢献への意欲のある生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	<p>本校では、「確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身（知・徳・体）を備えた生徒」の育成を中核に据え、「夢や希望の実現に向け、様々な課題に積極的に挑戦する生徒」「自他を尊び、地域・社会に貢献する自立した生徒」の育成を目指し、その実現のために以下の教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の自己実現に繋がるよう、基礎学力の定着に重視しながら興味・関心に応じた科目選択ができるカリキュラムを編成します。 学科やコース、類型の枠を超えて、思考力・判断力・表現力の育成を重視した学校設定科目を開設し、主体的、探究的に学び考える力を培います。 教育活動全般を通じて、温もりのあるコミュニケーション能力を育成します。 コミュニティ・スクールの趣旨を踏まえ、地域の小・中学校等との連携やボランティア活動などを積極的に図り、地域や社会に貢献する精神を涵養します。 海外姉妹校との連携等により、自己理解と異文化理解等を充実させ、グローバルな視点で物事を判断する力を育成します。 生徒一人一人の興味・関心に応じた講座を開講し、資格取得などを旨とする「本人のための教育」を推進します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	<p>本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな人間性を基盤に、社会に貢献しようとすることができる。 自他敬愛の精神とともに、自らの地域の歴史や文化に対する強い誇りと愛着をもっている。 コミュニケーション力を大切にし、仲間と協働しながら主体的に課題を解決できる。 卒業後も文武両道に努め、自ら学び続けることができる。

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	望ましい生活習慣の確立	出席率98.5%以上。	年間欠席総数前年比減10%以上	生徒総数が24名減っているため、欠席総数での比較は行わず、4月～12月の出席率を比較したところ前年度97.18%→今年度96.21%と出席率が0.97%低下した。	様々な要因から月単位での全欠の生徒が増加し、全体の出席率が低下した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、予防的な欠席も増加したことから、正しい医療的見地に立ち、特別支援的な内容も踏まえた取組を進める。	生徒の多様化が進む中で、高い出席率を維持することは困難を伴うが、原因を調査し家庭・地域とも連携しながら、更に望ましい生活習慣の確立に向けて取組を進めてほしい。	心配な生徒について、家庭と連絡を密にとるとともに家庭訪問等きめ細やかな指導を行うことで、望ましい生活習慣の確立を目指す。本校には毎週スクールカウンセラーが来校するので、特別支援的な見地からも外部の方々からアドバイスを受け、保護者と共に出席が常でない生徒の指導に取り組む。
	人権及び命に関する取組を深め、自他を大切にする学習の推進	人権や命にかかわる学習を各学年で年間9時間以上。人権問題について考える機会が多いを95%以上。	人権や命にかかわる学習を各学年で年間7時間以上。人権問題について考える機会が多いを前年並み（94%）に。	1年10時間、2年10時間、3年7時間の計画どおり実施できた。「人権問題について考える機会が多い」は、今年度の目標は達成できたものの、昨年度の94.3%から今年度94.1%と微減した。	各学年の人権ホームルームについて、実施内容や年次を工夫して実施できた。啓発文書の発出や人権係（生徒）の活動については、充実した取組を行うことができた。	十分な取組を行っていた。引き続き、人権意識の高揚に取り組んでほしい。	今年度の目標は概ね達成できているが、本校の実態やニーズに応じた人権教育の取り組みを考えていく。啓発文書も一過性のものにならないよう工夫し、保護者からのリアクションについても新たな方策を考える。
	望ましい食習慣の確立	朝食摂取率80%以上。	朝食摂取率の調査と啓発を各学期1回	5月実施のスポーツテスト中の項目として調査。69%が毎日朝食をとっている。2学期の保健日より啓発。2学期末及び3学期に啓発した。	スポーツテストにおける調査結果が2学期にわかり、それ以降3回の啓発を実施できた。その効果の検証が今後の課題である。	出席率の向上とも密接につながる重要な項目である。約3割が朝食をとっていないという認識で、更なる家庭への啓発に努めてほしい。	ホームルーム以外でも「保健」「家庭基礎」の授業と連携し、食育の一環として啓発に取り組む。面談時には保護者への啓発も行う。スポーツテストにおける調査のみならず、学校独自のアンケート項目として盛り込むことを検討する。
	課外活動の充実	部活動加入率（体育系・文化系）80%以上。	部活動加入率（体育系・文化系）74%	7月実施生徒アンケート結果74.3%（経年比較 前年度より3.1ポイント増）	（例年7月のアンケート数値を経年比較の対象としている）今年度もその時点では達成できており、昨年よりも数値は上昇している。	部活動の活性化は、学校のみならず地域の活性化にもつながる。地元の小中学校との連携も含めてこの調子で頑張ってもらいたい。	令和4年度の第1学年2学期末の部活動加入率は79%であり、このまま推移すれば中期計画の目標達成にも近づくが、コロナ禍もあり活動の低調な部分もあるので、その活性化にも取り組む。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	生徒の授業満足度の平均80%以上。	生徒の授業満足度の平均75%以上。	7月実施生徒アンケート結果76.4%（経年比較 前年度より2.1ポイント増）	（例年7月のアンケート数値を経年比較の対象としている）今年度もその時点では達成できており、昨年よりも数値は上昇している。	引き続き、生徒が満足できる授業改善に取り組んでほしい。	令和4年度の第1学年よりBYODによる端末及び電子黒板を利用した授業が行われており、令和5年度は1・2学年がこの環境になる。各種メディア使用を通じた授業改善に引き続き取り組む。
	学習習慣の確立	毎日家庭学習を行う者の割合を80%以上。	毎日家庭学習を行う者の割合を70%以上。	（生徒アンケート）平日に学習している生徒の割合 7月68.2% → 12月60.1%（経年比較 前年度12月より0.9ポイント増）（生徒アンケート）休日に学習している生徒の割合 7月65.2% → 12月56.1%（経年比較 前年度12月より1.5ポイント減）	年度の後半になるにつれ、毎日学習する生徒の割合が減っている。今年度の目標70%には遠く及ばない結果となってしまった。一方、平日2時間以上（生徒アンケート）休日に学習している生徒は微増しており、目標が明確である生徒はよく頑張っている。	自分の子どもがゲーム時間の長さ等から、十分予定できたことだが、学習以外の多くの時間がスマホ操作に費やされていると聞いて驚いた。まずは勉強に向かうためのしっかりとした目的意識を持たせることが必要である。指導に工夫をお願いしたい。	各クラスのGoogle Classroomでの呼びかけや、小テスト、単元テスト対策等を通じて、学習習慣の定着を図る。また、模試の受験促進等を通じて、第一志望校合格を目標に努力できるような雰囲気作りを行う。本校独自で作成している「私の夢プラン」（学習計画ノート）により学習計画と記録をつけさせるとともに学習時間の点検を定期的に行っており、生徒一人一人への声かけを一層重視する。
	ICTを活用した授業の推進	I C T機器の利用を全授業の80%以上。	I C T機器の利用を全授業の60%以上	11月の一斉調査で、全授業の79%でICT機器が使用されている。	各普通教室に整備されているPC・大型ディスプレイ及びiPadの整備により、ICT活用は他校と比較しても活発である。	引き続きICT機器を活用してわかりやすい授業を目指してほしい。	今年度段階では高いレベルで目標が達成できていると考えるが、今後は「総合的な探究の時間」等で、生徒の自主的な学びにICT機器を活用できるよう、更に研修を進める。

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップの充実	インターンシップ（就職希望者）、アカデミック・インターンシップ（進学希望者）への参加率100%。	インターンシップ（就職希望者）、アカデミック・インターンシップ（進学希望者）への参加を前年度以上にする。	教育研究所主催のインターンシップに1学期4名参加、冬のインターンシップは1社しか募集がなく参加できなかった。春期休業中のインターンシップには3名の申込があり、アカデミックインターンシップは四天王寺大学へ7名参加の予定である。	教育研究所主催の就職に関するインターンシップは、企業数も少なく参加しにくい状況にある。アカデミックインターンシップに関しては、本年度大学の候補まで選定できたので、今後それらの大学へ依頼していく予定である。	インターンシップは進路を考える上で重要な取組だと考える。アカデミックインターンシップはこれからの取組のようだが、頑張っ取り組んで欲しい。就職希望者のインターンシップについては、地元で協力できることがあれば言うてほしい。	教育研究所が行っているインターンシップの参加企業が減少しているため、今後学校独自の開催を検討する。3学期には環境の整った大学との間で、施設の利用や講義受講等のアカデミックインターンシップを行った。次年度は候補に挙げて他の大学について、夏期休業中を中心にアカデミックインターンシップを実施できるよう1学期から準備を行う。
	地元産業界等との連携	「出前講義」「職業ガイダンス」等を年間5回以上。	「出前講義」「職業ガイダンス」等を年間3回以上。	今年度は2学期「職業ガイダンス」「分野別進路講演会」「看護医療説明会」3学期に「出前講義」等、進学8回と就職6回、共通4回のガイダンス等を実施した。	校内で行うガイダンスには、多くの生徒が参加し、進路選択の材料を提供できている。一方、志望校に合格するための学習習慣につなげられるよう工夫する。	学習時間の確保等の動機付けにもなると思うので、地元の講師を招聘したりして学習習慣が運動できるように工夫してほしい。	進路情報会社を利用しながら運営できているが、特に志望校を選ぶタイミングでのガイダンス・学校説明会では、生徒のやる気を引き出すようなやや難関と考えられる学校も招聘できるようにする。
	キャリア教育の推進	「私の夢プラン」による自己点検を教員が確認し、アドバイスする（毎週）。 「進路カルテ」「ポートフォリオ」による到達度チェック等を毎学期1回以上。	「私の夢プラン」による自己点検を教員が確認（月1回）。 「進路カルテ」「ポートフォリオ」による到達度チェック等を毎学期最低1回。	「私の夢プラン」を用い、毎週月曜日に計画を立てている。一ヶ月に1回以上教員が点検している。「進路カルテ」「ポートフォリオ」（1年生はキャリアパスポート）のチェックを行っている。	「私の夢プラン」を用い、スケジュール管理を行っているが、生徒個人のレベルでは目標の未達が多い。	学習への意識付けと習慣化に役立つ取組である。継続して取り組んでほしい。	「私の夢プラン」「進路カルテ」等の活用意義について、絶えず意識させ、たゆまぬ努力が進路実現につながることに、折に触れ伝えられるように工夫する。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールとしての地域貢献	地域の各小・中学校との連携各校3回（共同開催含む）以上。	地域の小・中学校との連携各校2回	中学校（体育大会補助/部活動合同練習/五高スポーツ教室・カルチャー講座/高校見学）小学校（スポーツテスト補助/人工芝利用12月予定/コトプロプロジェクト12月予定/駅伝指導1月予定）	新型コロナウイルス感染症の影響の残る中、市内小中学校のニーズをくみ取りながら、多くの事業を再開できた。コロナ禍以前の状況を越えられるように、次年度は更に活発化させる。	地元としては、大変ありがたく感じている取組である。新型コロナウイルス感染症も新たな段階に入るので、連絡調整しながら、引き続き地域と共にある学校づくりを進めてほしい。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの活動において人数を制限せざるを得なかったが、地域行事が復活してきており、今後更に活発に地域との交流を進めていく。今年5月には新型コロナウイルスの感染法上の扱いも変わる予定であり、状況を見ながら参加者の募集規模等についても検討する。
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	「奈良TIME」における現地研修等を2回以上。	現地研修等を最低1回	BYODによるPC等を活用したグループ学習を進めている。現地研修に関しては、1年生まなびの森コースで五條文化博物館への現地研修を行った。	現地研修はまなびの森コースの1回のみにとどまっていた。五條文化博物館では丁寧な解説等もしていただけたので、学年全体の研修等にも活用していく。	五條市内にも学べる場所は多くあり、高校生が来ること地元も活性化する。今後は発信ということも重要になってくるのではないかと。更なる取組を期待する。	過去の取組等も踏まえつつ、研修先の開拓の必要性を感じている。学校運営協議会や進路指導部のインターンシップ等とも連携して、地域の魅力を知る機会を一層設けると共に学校から発信していくことも検討する。
	グローバルマインドの育成	姉妹校とのオンラインによる交流を年間3回以上（コロナ禍が終息すれば短期留学等も再開）。	姉妹校とのオンラインによる交流を年間2回以上	6月、11月、2月に実施。前2回は1年生まなびの森コースの生徒による活動だったので、3回目は対象を全校生徒に広げての交流した。	3回目は、1年生の学年閉鎖のため規模を縮小せざるを得なかったが、2回の交流を踏まえて姉妹校とも協議しながら実施することができた。	アフターコロナを見据え国際交流のできる学校として取組を継続してもらいたい。	長年培ってきた姉妹校関係を今後も継続し国際交流を推進するために、オンライン交流を継続して実施できるような体制作りをする。従来のガートン校の生徒の受け入れや本校生の派遣についても、次年度再開する見込となった。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進（卒業までのいじめ全件追跡）。	今年度のいじめ全件追跡	アンケートで把握した生徒について、担任による聞き取りを行い、再発防止に努めた。	いじめ根絶に向けた人権意識高揚のため、アンケート結果等を受けての取組だけでなく、未然に防止するための方策を積極的に考える。	インターネットの匿名性を悪用した例は、高校以外でも後を絶たない。ネット上のマナー等について、よい習慣を高校時代に身に付けられるようお願いしたい。	安易な気持ちから、友人へのからかいやSNSへ投稿する事例は残念ながらもなくなったとは言えない。人権意識を確かなものとするための考えさせる指導とインターネット上のマナー等を徹底させる指導の両面からいじめの根絶を目指す。
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の実効性ある活用	対象となる生徒の状況を確認（毎学期、全件）。	対象生徒の状況確認（毎学期）	1年生はすでに全件把握し、個別の支援計画を学校独自にまとめている。2・3年生は要配慮生徒について状況を確認し、対応している。	支援を要する生徒の数が年々増えており、新たな特別支援態勢を構築し、対応に当たっている。行政とも連携しながら更に丁寧な対応を進める。	家庭環境は年々複雑さを増している。義務教育においては通級指導も増加している。そうした状況も踏まえて、引き続き連携をお願いする。校種の違う学校間でも定期的に連携できればと考える。	家庭環境が複雑で、学校だけでは対応できない事例も多い。行政とも連携しながら取組を進める。生徒の人権に配慮しながら、丁寧な聞き取り等を行い、ケース会議をもちながら個別支援計画を整えていく。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

1 2月に実施した保護者アンケートでは、学校への満足度を問うた「子どもを五條高校に入学させてよかったと思う」の割合が、「そう思う（61.1%）」「どちらかといえばそう思う（33.6%）」の計が94.7%であり、前年度の計93.5%と比較すると、全体としては微増している。しかし、より満足している回答「そう思う」の割合が3.9ポイントの減となった。本校は平成28年度からコミュニティスクールとなっており、これまでも地元との連携を重視した取組を展開してきた。生徒の減少そして入学してくる生徒が多様化している中、エビデンスに基づききめ細やかな指導を行うことで、さらなる教育活動の充実に努める。